

# クイズに答えて素敵な商品をGET

**Q** ブラジルのリオデジャネイロオリンピックで大活躍した体操日本男子。男子団体総合で日本は金メダル、跳馬で白井選手が銅メダルと輝かしい成績を残しました。では、男子個人総合の金メダリストは誰でしょう？

- ① 白井 健三 ② 加藤 凌平 ③ 内村 航平

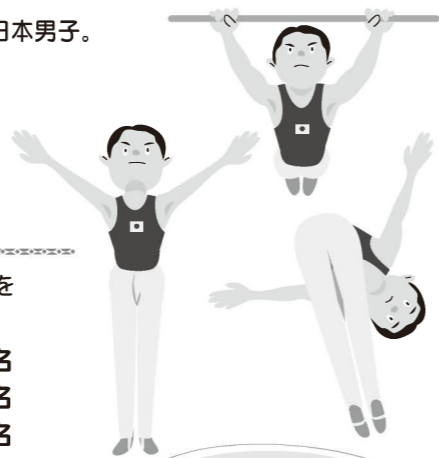
**応募方法** プレゼントの応募方法同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。

東京2020  
オリンピック公式商品

- ⑦ ピンバッジ 5名
- ⑧ アクリルキーホルダー 5名
- ⑨ フェイスタオル 5名

**応募期間** 2016年10月31日(月)(消印有効)まで

**当選発表** 賞品の発送をもって当選とさせていただきます。



皆様のご応募  
お待ちしております

## 社員紹介



渡邊 智和 (わたなべ・ともかず)

生年月日 1975年6月21日 血液型 A型  
マイブーム ウォーキング  
特技 動物に詳しい事(特に犬に詳しいです)

今年2月に営業部に入社しました渡邊智和です。墓石業界は今年で4年目になり、墓石の奥深さをひしひしと感じるようになりました。お客様の立場に立った接し方を心掛け、お客様と一緒に悩み、考えていきたいと思っています。

## 休業終了しました。

前号で社員紹介させていただきました、営業部の松尾誠也です。今月9月25日をもって国松石材での休業を終了し、長崎の実家(石材店)へ戻ることとなりました。国松石材に入社して約2年半、はじめは工務部の現場で、今年からは営業部で多くを学ぶことができました。特に営業ではたくさんのお客様と関わり、毎日が楽しく、時には頭をかかえ、本当に良い時を過ごせたと思います。今後も、お客様の「ありがとう」を原動力に日々精進していきます。本当にありがとうございました。



工場での勤務



ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

## 国松石材株式会社

平尾店/福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)  
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189

工場/福岡市東区松田3-6-12  
TEL 092-629-1189 FAX 092-629-2043

<http://www.kunimatu.com> 国松石材 検索

## 編集後記

リオデジャネイロオリンピックでは  
たくさんの感動をもらいました。  
なぜ努力するのかを特に考えさせられました。  
なぜお墓を建立するのかも  
しっかり考えなければなりませんね。

(国松祥治・田中俊晴)

# 松ぼっくり

- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「疑問・質問にお答えします」
- 3 第31回 町名散歩「御供所」
- 4 お墓参りっていいね!  
「お墓参り」の感動的なエピソード  
第7回 小説家 遠藤 周作さん
- 5 お客様からの声
- 6 お墓のなるほど講座
- 7 国松さん、今なんしようと?  
国松石材スタッフ紹介
- 8 クイズに答えて素敵な商品をGET!



## 季節の小話 お潮井取り

筥崎宮の年中行事の中で、春(3月)と秋(9月)の二度、社日祭があります。

社日祭とは雑節のひとつで、春分の日・秋分の日が一番近い戌の日にあたります。社日祭は、五穀豊穡・除災招福・家内安全等を祈るお祭り(もとは土の神様に豊作を祈願した感謝のお祭り)で、この社日の日はお潮井取り(お潮井汲み)と称して、箱崎浜の真砂を頂いて自宅へ持ち帰ります。特にこの社日の日のお潮井は効き目があると珍重され、早朝から箱崎浜へ訪れる参拝者の姿が多く見受けられます。博多では、このお潮井(真砂)の入った「てぼ」と呼ばれる竹で編んだかごを玄関や戸口に備えて、朝夕に身を清め家の出入りに際して身に振りかけて災難除けを願います。また、豊作や虫除けを祈って田畑にまいたり、家の建て替えにあたって敷地にまいたり、このお潮井の信仰は古くから博多の日常生活の中に根付いています。

今年の秋季社日祭は放生会大祭後の9月23日(金)にあたります。箱崎浜の秋風を感じながら御参拝とお潮井取りに行かれてはいかがでしょうか。お帰りは露店で筥崎宮名物の社日餅(やきもち)をお土産にどうぞ。





先祖代々の墓  
**Q&A**  
お墓の相談室 疑問・質問コーナー

お墓のお掃除編

そろそろお彼岸ですね。  
お墓参りには丁度いい季節ですね～  
今回はお盆の時によく質問された内容をご紹介します。  
それはお墓掃除の仕方です。お墓参りの際に、皆さんは  
どのようにお掃除をされていますか？  
きっと各家々やり方は色々だと思います。せっかくのお  
掃除も方法を間違えるとお墓を傷めてしまいます。今回  
はお掃除のワンポイントをご紹介します。



まずは掃除道具を  
ご紹介します。  
左から、左官用洗いブラシ、  
スポンジ、タオル…そして  
スクレーパーです。

1 左官ブラシ

ほうきの代用です。短くて持ち運びが便利です。お  
墓の土間や隅の葉っぱ、コケなどを掻き出します。



2 スポンジ

バケツに水を入れて主にお墓の表面の貼り付いた  
汚れを浮かして取ります。



3 タオル

濡れたお墓の拭き上げ用。お墓が濡れたままだと水  
垢の元になるので拭き上げ作業はかなり重要です。



4 スクレーパー

これは秘密道具です。表面がピカピカに磨いてある  
お墓にのみ有効ではありますが…  
黒くてブラシでは落ちない水垢をこすって落とす  
ます。立てて使うとお墓に傷が入りますので、寝か  
して使ってください。



意外に意識していなかった  
お掃除が使う道具で  
お墓をきれいにできます。  
ぜひ普段のお掃除の中  
に取り入れてみてください。

お墓の掃除も承っています。  
お見積りは無料ですので  
お気軽にお問い合わせください。

國松さん、  
今年はどう？

『幻住庵 永代供養塔建立工事』

福岡市博多区御供所町にある幻住庵（げんじゅうあん）は臨済宗のお寺です。

延元元年（1336年）の創建で、無隠元晦により開山されました。

以前は、那珂郡馬出村（現在の東区馬出）にありましたが、天正年間（1573年～1591年）に兵火にか  
かり焼失。正保3年（1646年）、博多の豪商、大賀宗九の息子宗伯が、現在地に再建しました。墓所には  
宗九・宗伯父子の墓があります。

また、文化・文政年間（1804年～1830年）には、聖福寺の名僧仙厓和尚が、庵内の虚白院にて静かに  
余生を過ごしました。

この度、歴史ある幻住庵境内に「永代供養塔」を設計施工させていただきました。

お話をいただいてから試行しながらの制作、期間を要しましたが、無事永代供養塔を建立することができ  
ました。同じ境内地には、夫婦墓もあります。

今は、後継ぎがない、無縁仏にたくない、子供に負担をかけたくない、生前の内に安心を得たいな  
ど、色んなご相談がお寺様にあるそうです。こういったご不安をなくす思いで今回は「永代供養塔」の建  
立を考えたそうです。

そんな思いのつまった永代供養塔に携われてすごく嬉しく思っています。



臨済宗 幻住庵 福岡市博多区御供所町7-1



営業担当/田中俊晴 設計・工事担当/花田義久・松井篤

國松石材スタッフ紹介

永代供養塔のメインである観音様に幻住庵様の思いをすごく感じました。  
思いのつまった観音様のおかげで、安心して眠れる空間になっております。

営業部  
たなか としはる  
田中俊晴

- 生年月日 / 1982年5月19日生まれ
- 血液型 / B型
- 資格 / お墓ディレクター2級
- 最近楽しんでいること / 3月に娘が生まれたばかりですので、日々成長  
してる姿をみるのがとても楽しいです。





## お墓のなるほど講座

今年の夏は暑かったですね…

お盆のお墓参りは暑くて行けなかったという方もいらっしゃるのではないでしょうか？

さて、前号ではお彼岸に先祖供養をする習慣は日本だけあって外国にはない日本独自の習慣のお話をさせて頂きました。

では今回はお墓の起源についてお話を致します。

日本のお墓の起源とは何なのか…

それは古事記にある神話にまで遡ります。

国づくりで有名な“イザナギ・イザナミ”の神。イザナミが火の神“迦具土神”<sup>かぐつちのかみ</sup>を産んだ際に火傷を負い、そして遂には亡くなってしまいます。イザナギがどうしてもと、亡き妻に会いに黄泉国<sup>よもつくに</sup>へ向かいました。既に黄泉国で暮らしてしまっているイザナミは、現世に帰る為には決して振り返ってはいけないとイザナギに伝え、帰路につきます。

しかしイザナギは帰る最中ふと気になりとうとう振り返ってしまいました。

イザナミは朽ちた体を見られ辱めを受けたと怒りイザナギを追いかけます。イザナギは一生懸命逃げ遂には地上へ抜け出口を“千引岩”<sup>ちびきいわ</sup>で塞いでしまいます。

これが神話に出る『墓石』始まりです。神話の中にあの世とこの世を繋ぐ所に石を使ったと出てくるんですね。

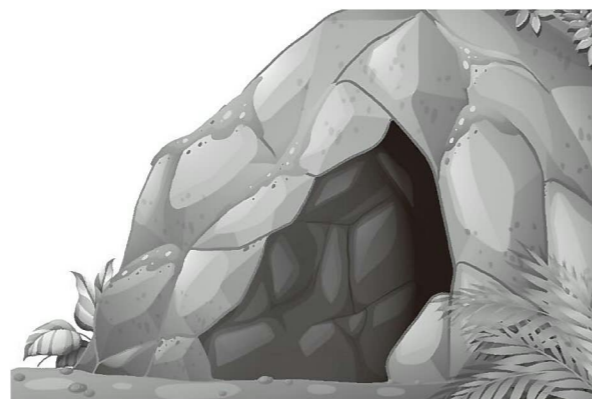
よくよく考えてみても、一時期ステンレスやセラミック（陶磁器）製、ガラスのお墓が新聞やテレビで話題になりましたが、今はサッパリ人気が無くなったように感じます。

決してそういったお墓がだめだということではなく、日本には古代から、石を“聖なるもの”として齋<sup>いっ</sup>まつ<sup>まつ</sup>祀<sup>まつ</sup>っていたようです。

日本人が古代からお墓を靈魂の宿る依り代の“石”で作るのは、“石”の靈力を信じる伝統があったからなのではないかと思えます。

このような“石”にまつわる仕事に従事できていることに感謝をしつつ、更に精進して参りたいものです。

他にもお墓の歴史は語ると尽きませんが、次号をお楽しみに！



## 第31回 町名散歩 ごくしよ 御供所

御供所

今回は、石堂川（御笠川）沿いの「御供所」を散策してきました。

「御供所」は筈崎宮へのお供えを調えた（必要な物を取り揃えた）町という事が、この名の由来とされています。

「御供所」は寺町と呼ばれるように、有名な寺院が集中しています。まずは、日本最初の禅寺で有名な聖福寺<sup>しょうふくじ</sup>があります。建久6年（1195年）に將軍源頼朝公よりこの地を賜り、栄西禅師<sup>ようさいぜんじ</sup>を開山として創建されました。また日本に中国からお茶を持ち帰ったことでも有名であり、日本のお茶文化の伝播<sup>でんぱ</sup>に大いに貢献したそうです。

その他、空海が唐から帰朝後初めて建立した東長寺には国の重要文化財の木造千手観音菩薩立像、木造座像としては日本最大級の大きさを誇る福岡大仏があります。

他にもたくさん有名な寺院があります。

ういろうの起源と云われている妙楽寺<sup>みょうらくじ</sup>。聖福寺の塔頭寺院である節信院<sup>たっちゅう</sup>。名僧として知られた仙厓和尚<sup>せつしんいん</sup>が隠栖した幻住庵<sup>いんせい</sup>。けんじゅうあん

近くには、博多祇園山笠の発祥の地として有名な承天寺<sup>じょうてんじ</sup>もあります。

このように、大小あわせて多くの寺院があり、外交の窓口として大使館や貿易基地として存在し、博多の僧たちは外交や貿易の仕事を任されていました。都市化が進む博多駅周辺や大博通り周辺地域に対し、昔のたたずまいが今も残っており歴史・文化が生きる貴重で閑静な地域として親しまれています。

私自身よくこのあたりはよく歩きます。調べていくとまだまだ知らない事が多くありました。このあたりを散策される際は、少し調べていくと「御供所」の奥深さを感じられるかもしれませんね。



御供所通り



聖福寺境内裏参道



「お墓参り」の感動的なエピソード  
お墓参りっていいね!

第7回 小説家 遠藤 周作さん  
「墓 について」

遠藤 周作『明日と言う日があるじゃないか』  
(河出書房新社)より

ミュッセは、自分が死んだら、その墓に一本の柳を植えよと言ったと聞く。スタンダールの墓には「生きた、書いた、恋した」と墓碑銘が書かれているそうだ。

そういう話を聞くと私は何とキザな話だろうと思わざるをえない。生きた、書いた、恋したなぞというジンマシンの起きるような文句を自分の墓にきざませる神経の持主なぞ、とても耐えられない。

とは言え、嗚呼、忠臣、楠公之墓などという奴もこれまたいやだね。できうれば、無縁仏のようなものが私の一番、性にあっているのだが。しかし無縁仏ではやっぱり一寸、情けない気がする。

もう七、八年前の初夏のことだ。

私は長崎の裏通りを少し汗ばんだ額をふきながら一人でぶらぶらと歩いていた。

ちょうどその午前、一緒にこの街に来た二人の友人に別れて一人ぼっちになった気やすさもまじり、私はひっそりと静まりかえった坂路をおりているところだった。

坂の両側には古い墓がたくさん並んでいた。楠の大木がいたるところに茂っていて、その楠のどこかで、もう蝉も鳴いていた。

私は一人の男の墓を探しているところだった。その男というのは後の私の小説の主人公のモデルになった外人宣教師で、切支丹迫害時代に日本で怖い拷問をうけ、棄教したあと、この長崎でみじめな生活を送って息を引き取ったフェレイラという人物だった。

この寺に彼の墓が残っていると、私は東京で聞いてきた。だから私はその初夏の真昼、少し汗ばみながら、歩きまわり、三百年もたった彼の墓を見つけようと思ったのである。

大きな古い寺のなかには人影は全くなかった。初蝉の声のきこえる楠の茂った墓地のなかで、墓はあまり沢山あるので、彼のものを見つけるのは不可能にちかかった。

半時間ほど歩きまわった時、私はくたびれて崩れかかった石段に腰をおろした。線香の匂いはその石段にまでしみついていて、真昼のあたたかさ、と、そして線香の匂いとで私は軽い眩暈さを感じていた……。

その時、私は自分のすぐそばに、愛らしい古い墓を見つけた。

それは丸い石を三つ、置いたものだったが、その石の背後に形のいい楠が一本、植えられていて、楠のこんもりとした葉彩がその石の上にやさしい翳と木漏れ陽とを同時に与えていたのである。

微風がふくとその翳と木漏れ陽とが墓を愛撫するように揺れた。まるで母親が幼い子供のゆりかごをゆらせているようだった。そして微風がやむと、葉翳が静けさをそと保つようにその石の上にさした。

墓はふるかった。おそらく百年か百五十年ぐらい経過しただろう。そこに埋められた人は丸い石を三つ重ねた墓しか作ってもらえぬところを見ると、世間ではたいした出世もできなかった男か、幼くして死んだ子供かもしれないのだが、生きのこった母親が女が彼のために小さな楠の苗木をそばに植えてやったのだろう。

苗木は大きくなり、葉翳と木漏れ陽とをその三つの丸い石に作り、そして長い長い年月がたった。

(これがいつ……)

私はその時、いつの日か自分が死んだならば同じようにしてほしいと切に思った。やさしい葉翳と木漏れ陽との下で永遠にゆっくりと眠れる。

フェレイラの墓はその日、遂に発見できなかったが私はひどく満足だった。それ以後、長崎に行くたび、その墓を見に行くことを欠かさない。



(河出書房新社) 発行日：2015年9月14日

お客様の声

國松石材とご縁をいただいたお客様の温かいメッセージをご紹介します

『家族の思いが詰まったお墓になりました。』

博多区にお住まいの新宮様

父の逝去に伴い、急きよお墓を建て替えることになったのですが、最初の打ち合わせから最後の開眼供養まで親身になって相談に乗っていただき、また酷暑の中一生懸命作業をやっていただきました。

お墓を作るにあたって何度も打ち合わせをしたのですが、そのたびに気持ちよく相談に乗っていただき、また的確にこちらの意図するところを汲んでいただくことで、こういうお墓にしたい、という家族の要望を見事に形にいただきました。

また8月のお盆までに建て替えたいということで必ずしも十分な納期があったわけではないと思うのですが、きっちり間に合わせていただき、親族一同そろってお盆前に開眼供養をすることができました。

これからも家族一族でしっかりとお墓を守っていきたくと改めて思っています。

この度はありがとうございました。



開眼法要の様子



リフォーム前のお墓



新しいお墓

担当者から一言

新宮様とは弊社社長とお父様のお付き合いがあり、私も良く顔を拝見しておりましたが、突然の訃報にただただ驚きで今回のお墓の建立に際しては自然に気持ちが一層こもりました。

以前からあるお墓の建て直し工事で、以前のお墓と今回新たに建てるお墓の雰囲気とを大事にし、ご家族の考える形をお墓に表していきました。特に敷石にお父様を偲んだご家族の思いのこもった桜の花びらを彫刻することには大変気を使いました。

完成して私もほっと一息をつけましたが、これからも続くご縁を大切にしていきたいと思っております。改めて、お父様のご冥福をお祈り申し上げます。



くにまつ しょうじ  
お客様係 國松 祥治